

科目名	音楽療法総論 I	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	猪狩 裕史	単位	2	年次	1

＝授業科目の目標＝

音楽療法には、その名の通り「音楽」というアート（芸術）が深く関わる。しかし、芸術と言っても、“美”や“質の良さ”を極めるという観点とは異なる次元で、人の感性と創造性に働きかけたり「表現する」ことを支え手伝ったりするのが音楽療法の一つの考え方である。療法の場には、身体、精神、社会的繋がりなど様々な側面においてサポートを必要とする人が対象となる。その上で音楽療法士は、音楽が持つ身体的、精神的、社会的働きについて知る必要があり、なおかつ対象者の障がいや病状、行動特性を理解し、専門家として関係を築き、そして音楽を意図的、計画的に用いて療法を行う。様々なニーズに応えるために、音楽療法士がどのように関わりその力を発揮できるかを、教科書についての話し合いや、体験的ワーク、AV資料による臨床例などを通して、理解を高めていく。

なお、講義内容や進行順序は場合により部分的に変更することがある。

＝履修の条件と学習の方法＝

- ・ 講義形式を基本とした授業内容だが、体験ワーク（音楽体験やロールプレイ）やグループディスカッションも含まれる為、意欲的に参加できること。
- ・ 体調不良や家庭の事情で欠席する場合は、授業開始までにメールか電話にて連絡を入れること。欠席した場合は、前の授業の内容を他の受講生に聞いて確認し、配布資料がある場合はそれを担当教員のところまで取りに来ること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義内容と目標）の確認。「健康とは」「音楽療法とは」*プリント「音楽療法を定義する」第10章「健康を促進するために」(pp. 83-91)を読み復習すること
- 2回 音楽療法の様々な場面 「音楽療法入門」I、第1章「音楽療法の臨床実践」
- 3回 音楽の機能① 「音楽療法入門」I、第3章「音楽 人間独特の現象であり治療手段となるもの」
- 4回 音楽の機能② 「音楽療法入門」I、第3章「音楽 人間独特の現象であり治療手段となるもの」
- 5回 音楽療法、医療、福祉① 「音楽療法入門」II、第11章「音楽療法、医療、福祉」
- 6回 音楽療法、医療、福祉② 「音楽療法入門」II、第11章「音楽療法、医療、福祉」
- 7回 ホスピスと緩和ケアの音楽療法 「音楽療法入門」III、第12章「ホスピスと緩和ケアの音楽療法」
- 8回 高齢者の音楽療法① 「音楽療法入門」II、第7章「音楽療法と高齢者」
- 9回 高齢者の音楽療法② 「音楽療法入門」II、第7章「音楽療法と高齢者」
- 10回 リハビリテーションとしての音楽療法① 「音楽療法入門」II、第10章「神経リハビリテーションにおける音楽療法」
- 11回 リハビリテーションとしての音楽療法② 「音楽療法入門」II、第10章「神経リハビリテーションにおける音楽療法」
- 12回 精神疾患における音楽療法① 「音楽療法入門」II、第8章「行動・情動（感情）障害の治療における音楽療法」
- 13回 精神疾患における音楽療法② 「音楽療法入門」II、第8章「行動・情動（感情）障害の治療における音楽療法」
- 14回 音楽療法の技法、パイオニア達とアプローチ プリント「音楽療法を定義する」第13章「音楽経験の型：音楽療法の4つの主要な手法」(pp. 121-134)、「音楽療法入門」III、第15章「音楽療法の治療プロセス」(pp. 179-190)
- 15回 コミュニティ音楽療法

＝成績評価の方法と評価の基準＝

- 出席点（出席 2 点）で総合成績の 30%とする。それとは別に無断遅刻の場合は 1%、無断欠席の場合は 2%の減点とする。
- 提出物
 - 課題（2 題）内容と提出期限は授業内にて案内する。提出期限厳守。各 10%
 - レポート（2 回）内容と提出期限は授業内にて案内する。提出期限厳守。各 5%
- 期末テストの成績は総合成績の 40%

=テキスト（必携）=

《No. 1》

書籍名：〈第 3 版〉「音楽療法入門」I

著者名：デイビス、グフェラー、タウト（著）栗林文雄（監訳）

出版社：一麦出版社

《No. 2》

書籍名：〈第 3 版〉「音楽療法入門」II

著者名：デイビス、グフェラー、タウト（著）栗林文雄（監訳）

出版社：一麦出版社

《No. 3》

書籍名：〈第 3 版〉「音楽療法入門」III

著者名：デイビス、グフェラー、タウト（著）栗林文雄（監訳）

出版社：一麦出版社

その他、必要に応じて適宜授業にて配布する。